

2019 年度 環境活動レポート

(2019 年 4 月～2020 年 3 月)



児童発達支援センターミニヨンヌアリス
(ベランダ手摺・装飾ドア)

株式会社 **アルテック**

作成 2020 年 04 月 30 日

環境方針

株式会社アルテックは、事業活動を通じて自然環境に限りある資源を大切にし、環境保全活動を展開していく事により、持続的な発展が可能な、豊かな社会の実現に貢献し、企業の社会的責任を果たします。

実施項目

1. 当社は、建築用装飾金属製品のエンジニアリング及び施工管理の事業活動をふまえ、E A 2 1に基づく環境経営システムを構築し、今日まで蓄積した技術力を活かし、経済的に可能な範囲で、環境目標・環境活動計画を定め、パフォーマンスの継続的な改善と環境汚染の未然防止に努めます。
2. 当社に適用される法令・条例・規則及び、当社が同意した環境保全のための要求事項を遵守します。
3. 総エネルギー投入量、温室効果ガス排出量の削減により環境負荷の低減に努めます。
4. 廃棄物の削減による環境負荷の低減に努めます。
5. 環境配慮製品の開発、設計に努めます。
6. グリーン購入を推進します。
7. 環境教育を実施し、全社員の環境保全への意識向上に努めます。

平成 23 年 4 月 1 日
株式会社アルテック
代表取締役 加藤節夫

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者名

株式会社アルテック
代表取締役加藤節夫

2) 所在地

本社 東京都品川区東大井二丁目 25 番 12 号
大阪営業所 大阪市浪速区日本橋東 1-4-1
名古屋営業所 名古屋市千種区覚王山通り 9-1-2
福岡営業所 福岡市博多区東光 1-2-8

3) 環境保全関係の責任者及び担当者の連絡先

責任者 総務部部长 仲尾正光
担当者 総務部部长 仲尾正光
連絡先 電話 03-3764-5811

4) 事業の内容

建築用装飾金属製品のエンジニアリング及び施工管理

5) 事業の内容 年度は4月～翌3月

活動規模	単位	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
工事等の件数	件	433	345	351	333	412
売上高	百万円	1035	950	918	885	797
従業員	人	27	28	28	28	28
床面積	m ³	939	939	939	939	939

2. 対象範囲（認証・登録範囲）次の全組織、全活動を対象とする

組織 本社 東京都品川区東大井二丁目 25 番 12 号
大阪営業所 大阪市浪速区日本橋東 1-4-1
名古屋営業所 名古屋市千種区覚王山通り 9-1-2
福岡営業所 福岡市博多区東光 1-2-8
活動 建築用装飾金属製品のエンジニアリング及び施工管理

3. 環境目標とその実績

3-1 環境目標

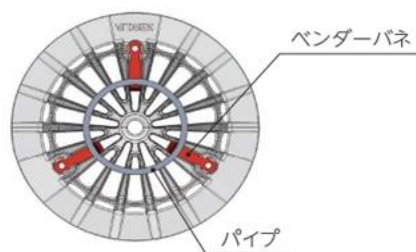
当社の今期の目標は、環境への負荷の自己チェックの現状と、取り組み状況のチェック結果を検討し、従来通りの二酸化炭素排出量削減・廃棄物排出量削減・総排水量削減・グリーン購入の推進・建設現場の適正な廃棄物の処理と本来の事業活動の課題であるクレーム件数の削減等に取り組むこととした。

主な具体的活動計画として、電力使用量の抑制、都市ガス使用量の抑制、自動車燃料の効率化、廃棄物の削減、マニュアル等の作成、消耗品のグリーン購入の推進、製作施工の管理の徹底、事前打ち合わせの徹底、製品のチェック機能の強化を実施します。

又、環境保全の取組として、製品（Patt 化粧飾りバー）の開発を今年度の課題とした。

窓をアイコンとして強化するアイテムで、1、2階の腰窓下に設置。1階では傘、ランタン等のハッキングが可能な製品で、耐荷重性、耐候性、防錆性、防水性等の試験を社内、社外の検査機関で行い、2019年12月の完成を目標に取り組んでいきます。

又、自動調整バンダーバネの改良も継続して研究開発していきます。



環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境低減の為の中期目標は次の通りとした。

*2020年1月追記

Patt 化粧飾りバーは2019年12月に製品化され、2020年01月より販売開始した。

全社合計

平成 28 年度から令和 1 年度 目標と実績 (2016~2019)

令和 2 年度から令和 4 年度 中期目標 (2019~2022

2020 年度以降目標 : 2019 年度実績比各年度 1、2、3% 減

全社合計			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
項目	単位		H28	H29	H30	R 1	R 2	R3	R 4
購入電力	kwh	目標	43,841	44,058	45,223	42,391	44,292	43,845	43,398
		実績	44,503	45,680	42,819	44,739	—	—	—
		達成状況	×	×	○	×	—	—	—
	kg-CO2		22,743	22,386	20,870	21,820	—	—	—
ガス	m ³	目標	197	224	222	187	80	79	78
		実績	226	219	181	81	—	—	—
		達成状況	×	○	○	○	—	—	—
	kg-CO2		475	457	381	175	—	—	—
ガソリン	Liter	目標	13,259	13,722	14,183	14,990	13,667	13,529	13,391
		実績	13,772	14,326	15,141	13,805	—	—	—
		達成状況	○	×	×	○	—	—	—
	kg-CO2		31,969	33,261	35,152	32,027	—	—	—
二酸化炭素 排出量	kg-CO2	目標合計	—	54,635	55,543	55,839	—	—	—
		実績合計	55,187	56,104	56,403	54,022	—	—	—
廃棄物削減 (一般+産業廃棄物)	kg	目標	1,984	1,747	1,449	2,268	3,255	3,222	3,189
		実績	1,764	1,464	2,291	3,288	—	—	—
		達成状況	○	○	×	×	—	—	—
水使用量削減	m ³	目標	363	481	484	505	447	443	438
		実績	485	489	510	452	—	—	—
		達成状況	×	×	×	○	—	—	—
環境配慮商品の開発、設計;			耐久性、軽量化、耐食性を考慮し長寿命化を開発						
DSR-17 S・M・L (ベンダーパネ使用)			—————				販売数 量把握	前年比 5%増	前年比 5%増
グリーン購入の推進;			事務用品グリーンマーク品の積極購入						
部品、補助材料のグリーン品の購入			部品、補助材料グリーンマーク品の購入						

※ DSR-17 の目標 2020 年度は全社一括で管理する。

本社

平成 2 年度から令和 03 年度 目標と実績 (2016~2019)

令和 02 年度から令和 04 年度 中期目標 (2020~2022)

2020 年度以降目標 : 2019 年度実績比各年度 1、2、3% 減

本社			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
項目	単位		H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
購入電力	Kwh	目標	27,021	27,523	28,190	26,976	28,702	28,412	28,122
		実績	27,801	28,475	27,248	28,992	—	—	—
		達成状況	×	×	○	×	—	—	—
	kg- CO2		13,790	13,981	13,242	14,090	—	—	—
ガス	m ³	目標	163	197	195	160	56.5	56	55.5
		実績	199	197	162	57	—	—	—
		達成状況	×	○	○	○	—	—	—
	kg- CO2		419	415	342	123	—	—	—
ガソリン	Liter	目標	5,785	7,076	7,948	7,708	6,744	6,676	6,608
		実績	7,147	8,028	7,786	6,813	—	—	—
		達成状況	×	×	○	○	—	—	—
	kg- CO2		16,591	18,638	18,076	15,806	—	—	—
二酸化炭素 排出量	kg- CO2	目標合計		30,492	32,704	31,342			
		実績合計	30,800	33,034	31,659	30,019	—	—	—
廃棄物削減 (一般+産業廃棄物)	kg	目標	1,069	832	594	1,413	2,390	2,366	2,342
		実績	840	600	1,427	2,414	—	—	—
		達成状況	○	○	×	×			
水使用量削減	m ³	目標	245	361	365	385	316	313	310
		実績	364	369	389	320	—		—
		達成状況	×	×	×	○	—		—
環境配慮商品の開発、設計			耐久性、軽量化、耐食性を考慮し長寿命化を開発						
グリーン購入の推進			事務用品グリーンマーク品の積極購入						
部品、補助材料のグリーン品の購入			部品補助材料のグリーンマーク品の購入						

※排出係数東京電力 0.486kg- CO2/kwh H29.12 公表

営業所（大阪・名古屋・福岡）

平成 28 年度から令和 01 年度 目標と実績（2016～2019）

令和 02 年度から令和 04 年度 中期目標（2020～2022）

2020 年度以降目標：2019 年度実績比各年度 1、2、3% 減

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
項目	単位		H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R4
購入電力	kwh	目標	16,820	16,535	17,033	15,416	15,589	15,432	15,274
		実績	16,702	17,205	15,571	15,747	—		
		達成状況	○	×	○	×	—		
	kg- CO2		8,953	8,405	7,628	7,731	—		
ガス	m ³	目標	34	27	27	27	27	27	27
		実績	27	22	19	24	—		
		達成状況	○	○	○	○	—		
	kg- CO2		56	42	40	51	—		
ガソリン	Liter	目標	7,474	6,646	6,235	7,282	6,922	6,852	6,782
		実績	6,625	6,298	7,355	6,992	—		
		達成状況	○	○	×	○	—		
	kg- CO2		15,378	14,623	17,076	16,221	—		
二酸化炭素 排出量	kg- CO2	目標合計		24,143	22,840	24,496			
		実績合計	24,387	23,070	24,744	24,003	—		
廃棄物削減 (一般廃棄物)	kg	目標	915	915	855	855	855	846	837
		実績	924	864	864	864	—		
		達成状況	×	○	×	×	—		
水使用量削減	m ³	目標	118	120	119	120	131	130	129
		実績	121	120	121	132	—		
		達成状況	×	○	×	×	—		

排出係数 H29.12 公表

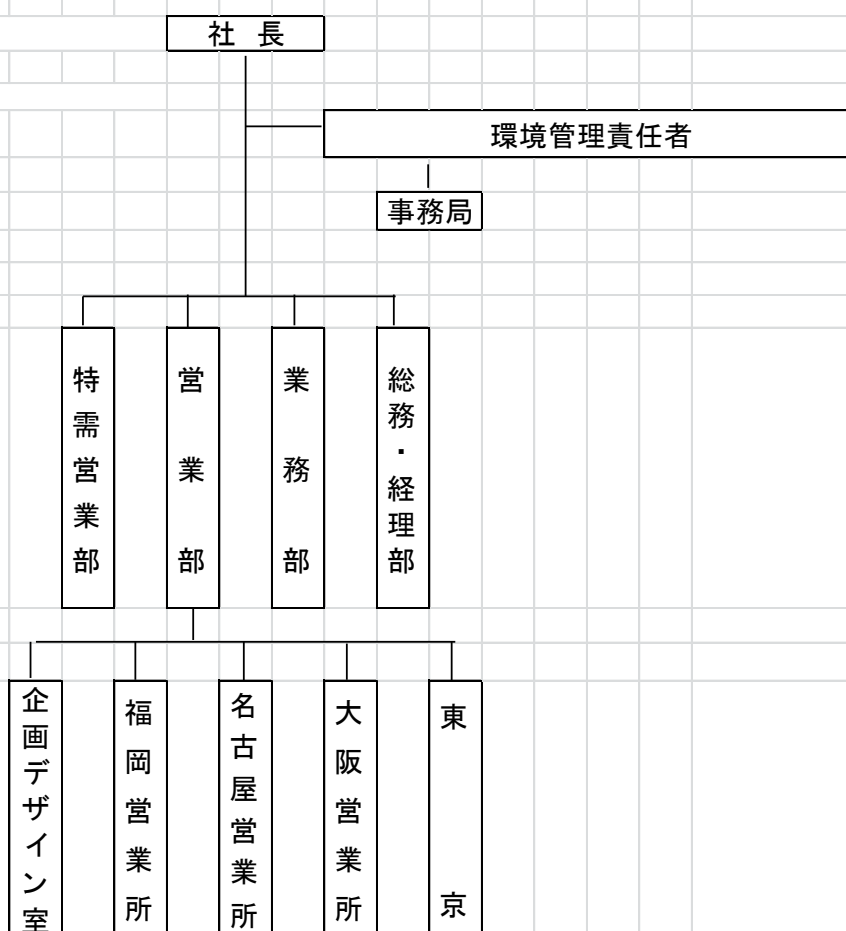
大阪営業所 関西電力 0.509(kg-CO₂)

名古屋営業所中部電力 0.485(kg-CO₂)

福岡営業所九州電力 0.462(kg-CO₂)

実施体制
役割、責任及び権限

2020.04.01



代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を策定する EA21実行に伴う必要な資源を用意する 環境管理責任者を任命する EA21の全体的取組み状況を評価し、見直し、必要な指示を与える 環境方針を朝礼などの場で周知徹底する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの要求事項を確立し、実施し、維持する 環境経営システムの構築、運用状況を社長に報告する。 環境方針に沿って環境目標、環境活動計画を策定する 法的要求事項及びその他要求事項を特定し、周知徹底する 環境マネジメントに関する意識啓発、教育訓練を実施する
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐して、重点管理項目、環境目標、環境活動計画の全体まとめを行う
品質環境会議	<ul style="list-style-type: none"> 年4回行う品質管理委員会において行う
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境目標、環境活動計画を立案する 各部門の環境マネジメントの実行を総括する
各部門従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境目標、環境活動計画を実施する 環境に関して、責任のあるやり方で業務を実施する 問題がある場合、各部門責任者へ報告する

4. 主要な環境活動の内容

当社の主要な環境保全活動に向けた具体的な取組内容を下記に示す。
日常活動でのフォローは別紙の活動計画書でおこなっている。

4-1 総エネルギー投入量、温室効果ガス排出量の削減により環境負荷の低減

(1) 電力使用量の抑制

- ① 昼休みの照明の消灯及び会議室等(使用していない部屋)の消灯
- ② 室内の空調は、夏 $28^{\circ}\text{C}\pm 2$ 度 冬は、 $22^{\circ}\text{C}\pm 2$ 度とする。
- ③ パソコンは、極力待機電力にする。
- ④ 照明器具のLED化
- ⑤ グリーンカーテン
- ⑥ クールビズ、ウォームビズの実施
- ⑦ 省エネタイプのOA機器の購入

(2) 都市ガス使用量の抑制

- ① ガスストーブ、小型湯沸かし器の定期点検
- ② ガスストーブの温度設定の徹底、定期的な清掃

(3) 自動車燃料の効率化

- ① 無駄なアイドリングをやめる
- ② 燃費のよりよい車輛の選定を行う。(車両の入替時)
- ③ 各車両の燃料使用量、走行距離を把握する。

4-2 廃棄物の削減による環境負荷の低減

- ① 社内使用書類の両面使用
- ② IT化によるペーパーレス化への取組
- ③ 使用済みの封筒の再利用
- ④ 梱包材の再利用
- ⑤ ごみの分別の徹底による資源化
- ⑥ 製作物、施工物製品の養生の簡素化

4-3 クレームの削減

- ① 製作施工管理の徹底
- ② 事前打合せ、確認を徹底しミスを防ぐ。
- ③ 顧客、社内での連絡ミスをなくす。
- ④ 各部門での製品チェック機能の強化。

4-4 環境教育を実施し全社員の環境保全への意識向上を図る。

- ① 今期は、環境経営マニュアル、運用手順の改訂を行う。

4-5 製品(アルドレックス)の環境配慮設計

- ① 高耐蝕性、軽量化、耐久性を高めるための研究開発設計

4-6 グリーン購入の推進

- ① 消耗品をはじめ副材料等など購入リストを作成しグリーン購入に努める。

4-7 水使用量の削減

- ① 節水啓蒙活動の指示
- ② 使用量の月次変化のチェック(漏水チェック)

5. 環境活動への取組結果の評価、次年度の取組内容

本 社

2019 年度活動前年比較表

項目	単位	2018	2019	増減	前年比
購入電力	kwh	27,248	28,992	1,744	6.4%
	kg- CO2	13,242	14,090	848	
都市ガス	m ³	162	57	-105	-64.8%
	kg- CO2	341	123	-218	
ガソリン	Liter	7,786	6,813	-973	-12.4%
	kg- CO2	18,076	15,806	-2270	
合計（目標）	kg- CO2		31,342		
合計	kg- CO2	31,659	30,019	-1640	-5.18%
目標達成率			104.4%		
廃棄物(一般+産業廃棄物)	kg	1,427	2,414	987	69.1%
水使用量	m ³	389	320	-69	-17.7%

今年度の CO2 排出量低減についての活動は、目標達成率 104.4% 前年比-5.2%で終了し低減することができた。

項目別については

- ・購入電力は 12 月～3 月の寒さによる暖房機器の使用増加により 6.4% 増加
- ・都市ガスは 1 階のガスストーブ使用減少により -64.8% と大幅な減少
- ・ガソリンは車両の入替等もあり -12.4% の減少
- ・廃棄物は、69.1% 増加で終了。前年度後半より業者へ処分を依頼始めたことにより正確な数字が把握できるようになった。来年度は正確な比較できるようになると思います。
- ・水使用量は 8 月に敷地内の水漏れ等が発生し台風の関係で工事は伸びたが 11 月には終了し後半の節約等により -17.7%で終了
- ・本社の自社責任によるクレームの発生はなかった。

次年度については、以下の項目を主な活動とします。（全社共通）

1. 購入電力の CO₂ の負荷低減については、複合機・パソコン等の省エネタイプへの買替
2. 車両の入替時ハイブリッドへの変更 又、ドライブレコーダーの導入を検討し、安全運転、エコ運転の意識向上を図る。
3. クレームの削減。
4. 社員教育、消耗品等のグリーン購入の推進。
5. 廃棄物排出量の削減活動。
6. 新製品の開発活動。

営業所（大阪・名古屋・福岡）合計表

2019 年度活動前年比較表

項目	単位	2018	2019	増減	前年比
購入電力	kwh	15,571	15,747	176	1.1%
	kg- CO2	7,628	7,731	103	
都市ガス	m ³	19	24	5	26.3
	kg- CO2	40	51	11	
ガソリン	Liter	7,355	6,992	-363	-5.0
	kg- CO2	17,076	16,221	-855	
合計（目標）	kg- CO2		24,496		
合計	kg- CO2	24,744	24,003	-741	-3.0
目標達成率			102.0		
廃棄物(一般廃棄物)	kg	864	864	0	
水使用量	m ³	121	132	11	9.0%

今年度の三営業所のついで活動についての合計は目標達成率 102.0% 前年比-3.0%で終了し低減することができた。

項目別については

- ・購入電力は、大阪営業所の夏のエアコンの使用増により 1.1% の微増
- ・都市ガスは、使用量は僅かではあるが湯沸かし器使用等の増加により 26.3% の増加
- ・ガソリンについては、現場等の減少により-5% の減少
- ・廃棄物については、現状維持、水使用量については、名古屋の使用増により 9.0% の増加

6. 現場作業について

施工現場での作業は、月平均 34 件程度あり、工事に要する時間は 1 件約半日で終了します。50,000 千円以上の現場 1 件もありません。

使用工具は、充電式ドリル、ドライバー等で環境に与える影響は少ない。工事は協力会社に依頼しており、工事が出る梱包材、端材は大部分が持ち帰りの上正規に処分している。

この内容は 1 件毎に発行される施工計画書に明記されている。

2019 年度 施工件数 412

7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び結果並びに違反、訴訟等の有無

主な関連法規性及びその他要求事項一覧

関連法規制及びその他の要求事項	規 制 内 容	遵守状況
廃棄物処理法	・廃棄物の減量のその他その適正な処理の確保に関する地方公共団体の施策に協力する。 運搬または処分は定められた業者に委託する。	○
小型家電リサイクル法	・市区町村又はリサイクル事業認定業者に引き渡すよう努める。	廃棄無し
フロン排出抑制法	・管理者を決める ・室外機 7.5k w未満・点検の実施(4半期毎) ・点検スケジュール表の作成、点検実施、記録、保管	○
建築基準法	・労働時間等の厳守	○
労働安全衛生法	・労働者の安全確保等	○
リサイクル法	・使用済み物品等の再生資源・再生部品として利用促進	○
容器包装リサイクル法	・容器包装廃棄物の分別集・再商品化物の使用	○
グリーン購入法	・事業者はできる限り環境物品等を選択するよう努める。	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車を引き取り業者に引き渡す。	○
廃棄物の処理及び再利用に関する条例 (東京都品川区)	・廃棄物の発生を抑制、再利用を促進するとともに廃棄物を適正に処理をする。	○
廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する条例 (大阪府大阪市)	・廃棄物の発生の抑制し、再使用及び再利用の促進等による廃棄物の減量を推進するとともに廃棄物の適正に処理をする。	○
廃棄物の減量及び適正処理に関する条例 (名古屋市)	・廃棄物の発生抑制、再利用促進、事業者による廃棄物の減量	○
廃棄物の減量及び適正処理に関する条例 (福岡市)	・廃棄物の発生抑制、再利用促進、事業者による廃棄物の減量	○
下水道法 下水道条例・同施工規則(東京)	・生活排水による水質の汚濁防止	○
下水道法 下水道条例・同施工規則(大阪)	・生活排水による水質の汚濁防止	○

下水道法 下水道条例・同施工規則(名古屋)	・生活排水による水質の汚濁防止	○
下水道法 下水道条例・同施工規則(福岡)	・生活排水による水質の汚濁防止	○

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

8.代表者による全体の見直しと評価

- ・全社合計でのCO₂の低減は、目標達成率103.3%、前年比-4.2%で終了し、前年比1%減の目標は達成することができた。

項目別には

- ・購入電力のCO₂低減は、目標達成率94.7% 前年比4.5%となり1%減の目標を達成することはできなかった。
- ・ガソリン使用によるCO₂低減は、目標達成率108.5% 前年比-8.8%で達成することができた。
- ・都市ガスについては、本社のガストープの使用減少により前年比-55.2%と大幅な低減となり目標を達成することができた。
- ・特需部の今年度計画の新規商品(Patt 化粧飾りバー)の開発については、予定通り2019年12月に完成し2020年1月から販売を開始した。又、既存製品の改良のための研究も継続に実施していた。
- ・クレームの削減については、大阪営業所1件の発生で終了した。

次年度の取組については、コロナウィルス感染症の予防対策、夏のクールビズ、冬のウォームビズの実施、又 エアコンのこまめな温度設定、車輛の入替、燃費の把握、事務機器の更新等、特需部での製品の開発等、クレーム削減のための活動計画を確実に実施することでCO₂削減できるよう取り組んでいきます。

見直しの指示

1. 環境方針・・・継続する。
2. 環境目標、環境活動の見直し・・・継続する。
3. 実施体制・・・継続する。
4. 経営システム全般・・・継続する。

2020年4月30日
代表取締役 加藤節夫